

# 若手経営者の参加を促す時代を先取りした視点と活動に取り込む

若手経営者  
参加促進委員会  
(2018年度)

委員長  
車谷 暢昭

経済同友会は終戦直後の1946年、30代～40代の新進気鋭の若手経営者が設立した。今また「改革を先導し行動する政策集団」として若手経営者や起業家の新しい発想を取り込むため、正会員とは別の枠組みで活動に参加できる新しい制度を創設した。制度の目的や将来像を、車谷暢昭委員長が語った。

(インタビューは4月23日に実施)

## 正会員とは別の枠組みで ノミネートメンバー制度を立ち上げ

経済同友会は、設立当時の代表(当番幹事)は40代・50代の方でした。以来、先進的な提言や意見を発表し、アクティブに活動を展開しています。私の直接の先輩世代も40代から活躍されて日本のオピニオンリーダーになり、政府の改革なども主導してきました。

そんな歴史を誇る団体ですが、最近では以前より若手の会員が少なくなり、現在30代、40代の会員は全体の約8%に満たなくなっています。特にベンチャー企業の経営者が少なく、その原因の一つとして、この世代の経営者に本会の存在や活動内容が伝わっていないという問題意識がありました。この課題に対して、昨年「経済同友会2.0を实践推進するPT」が発表した報告書『「経済同友会2.0」実現への組織運営改革』の提案に基づいて、本委員会を立ち上げました。設置の目的は、若手経営者や起業家などの本会への参加を促進するために、正会員とは別の枠組みで活動する新しい仕組みを制度設計することで

した。そしてできたのが、「ノミネートメンバー制度」です。

## 政策委員会の副委員長として活動 活性化のための重要な仕組みに

ノミネートメンバー制度は、経済同友会の理念に共感していただける若手経営者・起業家の中から、特定の個人に対して、「ノミネートメンバー」として参加を依頼する制度です。今回は、初めての試みだったので、メンバー候補者の推薦者は、代表幹事、副代表幹事、専務理事、常務理事と本委員会委員に限定しました。本会の正会員の中で層の薄いベンチャー企業の創業代表者や、グローバルニッチな競争力のある企業の代表者を対象に、昨年10月に候補者の推薦を募集、18人が挙がり、12月に本委員会において選考しました。

その中から選ばれた15人に対して本委員会の若手委員が勧誘・打診を行い、最終的には、6人がメンバーとしての活動参加を受諾し、2人が正会員として入会することとなりました。残りの7人も、時期を見てぜひ参加したいということでした。

ノミネートメンバーには、まず、自分が興味のある政策委員会の副委員長になっていただきます。また、開催趣旨に応じて、海外ミッションへの参加やシンポジウムへの登壇をお願いするなど、経済同友会の中心的な活動をしていただきます。「改革を先導し行動する政策集団」を標榜する本会にとっては、こうした若手経営者や起業家の新しい発想を取り込むことは、先進的な提言の立案と、実現に向けた活動をするための潤滑油になっていくでしょう。ノミネートメンバーは、副委員長として責任もありますから、貢献しようという気持ちで参加されると思います。

また、ノミネートメンバーの活躍を通じて、これまでなじみのなかった世代・業種の経営者にも本会の活動が波及し、呼び込む起爆剤になることも期待しています。若手経営者が増えて、自由にモノが言えるような状況をつくり出すことが、私は望ましいと思っています。ノミネートメンバーには、さまざまな課題解決を経験し、将来、本会の幹部として活躍していただきたい。ノミネートメンバー制度は、経済同友

# し 感性を

**車谷 暢昭 委員長**  
東芝 取締役代表執行役会長CEO

1957年愛媛県生まれ。80年東京大学経済学部卒業後、三井銀行(現・三井住友銀行)入行。2015年取締役兼副頭取執行役員、17年シーヴィーシー・アジア・パシフィック・ジャパン取締役会長兼共同代表などを経て、18年より現職。10年3月経済同友会入会。11年から 幹事。17年度教育改革委員会委員長、18年度より若手経営者参加促進委員会委員長。

会を活性化していくための重要な仕組みになると思っています。

## 多様性を高めることが 組織のクオリティーを上げる

若手経営者や起業家にとって、経済同友会での活動は、自分の意見を世の中に訴え、変えていこうとするための大きな場になるはず。今回、ノミネットメンバーになった方々は、現在の急速なグローバル化、AI化、ソーシャル化という大変革の中で革新的で新しいビジネスモデルを構築されています。また世界や日本が抱える社会課題に対して志を持って活動されています。

既存の会員の皆さんも、ノミネットメンバーから多くの学びがあると思います。組織のクオリティーを上げるためには、多様性を高めることが、圧倒的に効果があります。新たなものはそこからしか生まれません。経済同友会がその「ゆりかご」のような存在になっていくことを願います。

今回、メンバーになったのは男性経営者ですが、今後は女性や外国人にも加わってほしいと考えています。

概要(4月17日発表)

## 経済同友会初の試み —若手参加促進のための新制度— 起業家ら若手経営者6人を第1期メンバーに決定



**秋好 陽介(38歳)**  
(あきよし・ようすけ)  
ランサーズ  
取締役社長CEO



**伊佐山 元(46歳)**  
(いさやま・げん)  
Wil  
共同創業者 兼 CEO



**出雲 允(39歳)**  
(いずも・みつる)  
ユーグレナ  
取締役社長



**大山 晃弘(41歳)**  
(おおやま・あきひろ)  
アイリスオーヤマ  
取締役社長



**佐々木 紀彦(38歳)**  
(ささき・のりひこ)  
ニュースピックス スタジオ  
取締役社長CEO



**辻 庸介(42歳)**  
(つじ・ようすけ)  
マネーフォワード  
取締役社長CEO

※年齢は発表時

## 『ノミネットメンバー制度』=若手経営者や起業家の参加促進

経済同友会は組織改革の一環として、若手ビジネスリーダーの参加促進に向けた「ノミネットメンバー制度」を新たに立ち上げた。世界的な大変革のうねりの中で、経済同友会自身も変革すべきであるという強い思いから2018年度に若手経営者参加促進委員会を発足し、制度設計とメンバーの検討を進めてきた。

本制度は、経済同友会の理念に共感していただける若手経営者や起業家などの中から、特定の個人に対して「ノミネットメンバー」として参加を依頼する制度。参加するメンバーには、本人の得意分野・関心分野に応じて委員会の副委員長に就いていただき、政策提言や実践活動などを正会員と共に行っていただく。

### ●ノミネットメンバーの主な活動

※会員制度とは別の枠組みとする。

1. 経済同友会の正規活動の一部に参加  
個々人の得意な分野での活動：

- ・ 政策委員会の副委員長として活動する。
- ・ 政策委員会の「委員」として活動する。

全会員対象の会合への参加活動：

- ① 通常総会懇談会
- ② 会員セミナー
- ③ 新年会員懇談会・会員懇談会
- ④ 海外ミッション
- ⑤ シンポジウムなど

※④⑤は開催趣旨に応じて参加、あるいはパネリストとして登壇

### 2. ノミネットメンバー限定の特別プログラム (若手経営者参加促進委員会の企画・主催)

- ・ 代表幹事・副代表幹事等の幹部との懇談会など。

### 3. 全会員対象会合におけるノミネットメンバーの講演

#### ●活動期間

- ・ 2年間に限定。
- ・ 活動終了後は、ノミネットメンバーの活動実績をもって正会員としての入会を検討。